

外来化学療法室における抗がん剤調製の患者待ち時間対策

波多野純義 高瀬 久光 窪田 愛
内山 将伸 吉住亜紀子 緒方憲太郎
鷲山 厚司 原 周司 二神幸次郎

福岡大学病院薬剤部

要旨：FOLFOX 療法をはじめとする調製に時間のかかるレジメンは、別の患者の投薬開始までの待ち時間に影響をおよぼす懸念がある。しかし、抗がん剤に関する調製手順の安易な変更は、調製リスクの増加原因につながりかねないため、慎重な検討がなされるべきである。今回、調製依頼が重複した場合に、患者間において割り込み調製が安全かつ柔軟にできるよう、一手技（一薬剤）ごとに専用容器に準備し、各患者の投与開始薬剤を優先して調製する方法を検討した。同時に、安全キャビネット内への薬剤の搬入と調製については一手技ごとに行うよう調製手順を改めた。この準備方法と手順の変更は、患者の投与開始薬剤、すなわち1薬剤目の待ち時間を有意に短縮し、外来化学療法室におけるベッドの円滑な運用にも貢献することができた。

キーワード：抗がん剤，待ち時間，調製方法，割り込み調製